

Pair Letter

ペアレター

周産期母子医療センター

～母子の命と健康を守る～



■ 周産期母子医療センターと小児医療センターの連携

■ 連携登録医紹介 - たけだメンタルクリニック -

～NICUに搬送される赤ちゃん～

外来診療一覧 (R5.7.1現在)

詳細はホームページの各診療科の案内をご覧ください

発行元：松戸市立総合医療センター 編集部

診療科名	外来表(一般外来及び予約専門外来)	備考	
内科系	腎臓外来	一般外来	火・木曜日休診
	糖尿病・代謝・内分泌	一般外来	
	リウマチ・アレルギー	一般外来	
	循環器内科	一般外来/ペースメーカー外来	
	呼吸器内科	一般外来	
	消化器内科	一般外来	
	脳神経内科 (予約制)	一般外来	
	血液内科	一般外来	
	緩和ケア科 (予約制)	診察は外来主治医と相談	
	総合診療科	一般外来	
外科系	皮膚科 (完全紹介予約制)	一般外来	
	化学療法内科 (予約制)	診察は外来主治医と相談	
	外科・消化器外科、乳腺外科	一般外来	
	呼吸器外科	一般外来	火曜日休診
	心血管外科 (予約制)	一般外来	
	脳神経外科	一般外来	
	整形外科 (完全紹介予約制)	一般外来/小児整形/成人股・膝・肩・肘関節・手・側弯症/リウマチ	
	形成外科 (予約制)	一般外来	水曜日休診
	眼科 (完全紹介予約制)	一般外来	火曜日休診・木曜日午後休診
	耳鼻いんこう科 (完全紹介予約制)	一般外来	
小児	泌尿器科	一般外来	
	産婦人科 (完全紹介予約制)	一般外来/妊婦健診/不妊外来	
	歯科口腔外科 (完全紹介予約制)	一般外来	月曜日手術のため院内対応のみ
	小児科	一般外来/小児神経/腎臓/アレルギー/呼吸器/血液/循環器/感染/内分泌	
	小児外科 (月曜午後予約再来のみ)	一般外来	月曜日午前休診・水・金曜日休診
	小児脳神経外科	一般外来	月・水・木曜日休診
	小児心血管外科	一般外来	
	新生児科 (予約制)	一般外来/シナジス外来	月曜日午後・火曜日・木曜日午前休診
	放射線治療科 (予約制)	一般外来	水曜日午後休診(水曜日午前、木曜日再来のみ)
	救急科(再来) (予約制)	再来患者 11:00～12:00	
その他	精神科	現在休診中	
	女性特別外来 (予約制)	一般外来	木曜日以外は休診
特別外来	禁煙外来	総合診療科外来へ	
	セカンドオピニオン外来 (予約制)	一般外来	
	母乳外来 (予約制)	産婦人科外来へ	
	ストーマ外来 (予約制)	人工肛門/人工膀胱(外科・泌尿器科外来または外来主治医と相談)	

松戸市立総合医療センター Matsudo City General Hospital

〒270-2296 千葉県松戸市千駄堀993番地の1
TEL 047-712-2511(代) FAX 047-712-2512(代)

【診療】 月曜日～金曜日(土・日曜日、祝日、年末年始は休診)
【受付時間】 初診：午前8時30分～午前11時
再診：午前8時～午前11時

【完全紹介予約制】は、地域の医療機関からの紹介状と事前の受診予約が必要です。

【予約制】は、事前の受診予約が必要です。(6ページを参照)



総合診療センター
QRコード

交通アクセス：有料駐車場有(491台) 松戸駅・北松戸駅から新京成/ス
■橋駅・北松戸駅からゆめバス、新京成八柱駅からシャトルバス



東葛北部保健医療圏唯一の地域周産期母子医療センター

周産期医療に対する当院の取り組みが高い評価を受け、2016年4月から地域周産期母子医療センターに認定されています。以来、東葛北部地域の周産期医療において重要な役割を担っています。
周産期の突発的な事態に備え、産科・新生児科と連携し、総合的な体制を整えています。



個室病室にて

周産期医療への取り組み

スムーズな連携と治療

ハイリスク妊娠や、産まれて間もない新生児への医療的サポートが必要となった場合は、産科と新生児科が連携し、迅速に対応しています。また、新生児科の医師はNICU（新生児集中治療室）とGCU（新生児治療回復室）のどちらも担当しているので、切れ目のない治療が行えます。

周産期医療のスペシャリスト

新生児医療は専門的知識を必要とするため、新生児科の常勤医師はすべて新生児専門医です。
看護師においても新人・ベテランそれぞれのスキルに合わせた院内研修等を通し、技術はもちろん赤ちゃんと家族に寄り添える看護を心掛けています。また、新生児蘇生法インストラクターの資格を持つ「新生児集中ケア認定看護師」による講習会を定期的に実施し、各スタッフの対応力を強化しています。

産後や退院後を考慮した環境

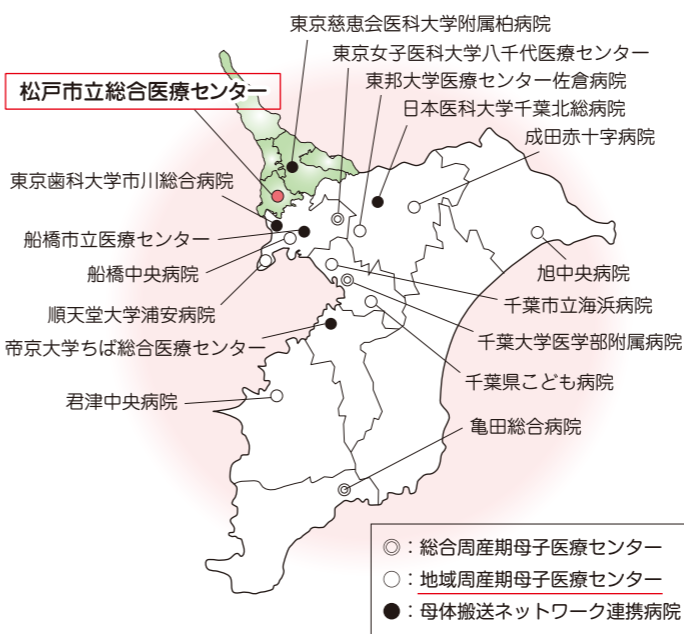
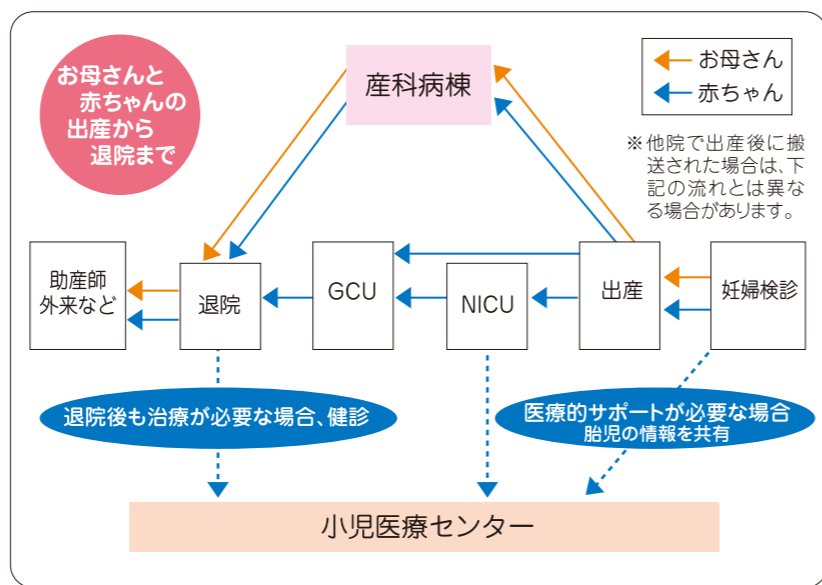
産科と新生児科は同じフロア内に位置しています。そのため、NICU・GCUに赤ちゃんがいる場合、会いに行く際の移動距離が短いため、産後の母体への負担が軽減できます。
また、産科病棟では、お母さんや赤ちゃんの体調に合わせて授乳やおむつ替えなどをお部屋で行い、お世話に慣れた状態で退院できるようサポートしています。

症状回復・改善を促進する設備

早産（低体重）で生まれた赤ちゃんは24時間同じ明るさで育てるよりも、一日のうち一定の時間が暗い昼夜のある環境で育てることで、より体重が増加することが知られています。
新生児科病棟（NICU・GCU）の照明は、夜間は自動的に少く暗くなるよう設計されており、発育の促進に繋がっています。



照明の変化



千葉県は9つの医療圏に分れており、医療圏内にとどまらず、圏外の他施設でのハイリスク分娩・早産患者などを積極的に受け入れています。

母体搬送ネットワークで、お母さんと赤ちゃんを守ります

「周産期」と言われる、妊娠22週から出生後7日未満までの期間は、妊娠合併症や分娩時の新生児仮死など、母体や胎児、新生児の生命に関わる事態が発生する可能性が高くなる時期です。
そのような事態となった際に備え、千葉県内では母体搬送ネットワークを構築し、安心して出産が行える体制を整えています。

新生児科主任部長 就任 | 4月から新たな体制で



新生児科病棟（NICU・GCU）では、さまざまな事情により医療的サポートを必要とする赤ちゃんを新生児医療に特化した人・物・場でケアしています。NICUという急性期管理に目が向きがちですが、赤ちゃんにとって新生児科病棟は治療の場であると同時に「生活の場」でもあります。赤ちゃんが安全に治療を受け、ご家族との絆を紡ぎ、育つ力を最大限に発揮できるよう、あたたかい心をもって日々の診療にあたっています。

新生児科主任部長 鶴田 志緒

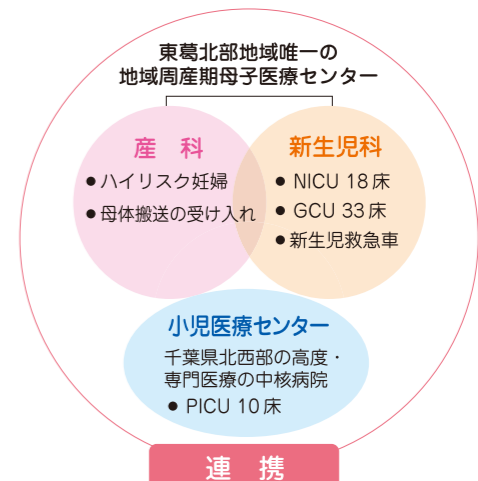
1999年東京女子医科大学卒業後、旧東京女子医科大学東医療センター、旧国保松戸市立病院、聖路加国際病院などを経て2023年より現職。



周産期母子医療センター長 藤村 尚代

1996年山梨医科大学卒業後、千葉大学医学部附属病院、千葉市立海浜病院、千葉労災病院を経て2013年産婦人科部長、2018年より現職。

当周産期センターでは、周囲の分娩取り扱い施設と連携して、地域の皆さんに安心・安全な医療の提供を心がけておりますが、東葛地域は出生数に対してNICUの病床数が十分ではありません。しかし、産科病棟、NICU・GCUを効率よく運用し、充実した医療体制を構築したいと考えております。かかりつけの先生からのご相談に速やかに対応できるよう務めてまいります。



各病床数は許可数



周産期母子医療センター QRコード

周産期母子医療センターと 小児医療センターの連携

赤ちゃんがお腹にいる時からサポート



当院の小児医療センターは6つの診療科で構成され、地域の医療機関とも連携し、365日24時間体制で対応しています。お母さんのお腹にいる胎児の時から、赤ちゃんに何らかの疾患がある場合には、センター同士で連携し情報を共有しています。出生後は、脳や心臓など赤ちゃんの疾患に応じ、小児医療センターの診療科で速やかに手術を行っています。周産期医療では、急性期から安定期まで幅広い治療・看護が求められます。NICU・GCU間の連携はもちろんのこと、赤ちゃんの症状に合わせて産前から小児医療センターとも連携し、継続して対応することで、赤ちゃん・ご家族とも安心して治療に専念いただけるよう努めています。

小児医療センター

小児科

小児外科

小児脳神経外科

小児心臓血管外科

小児集中治療科

小児麻酔科

小児医療センターの各診療科と連携し、 切れ目のないケアに繋がっています。

妊婦健診で胎児に異常が発見された場合、まず新生児科と小児科の医師が連携し、生後必要となる治療を想定します。その後、小児科医を通じて対応する診療科に引き継がれ、万全の受入体制を整えます。



小児医療センター
QRコード



小児医療センター長 **もり まさと 森 雅人**

1991年自治医科大学卒業。茨城県立中央病院で研修後、北茨城市立病院、友部町国保病院、自治医科大学附属病院を経て、2013年より当院小児科、2023年より現職。

小児医療センターは6科で構成されていますが、他にも整形外科、耳鼻いんこう科、形成外科、歯科口腔外科、皮膚科、救命救急センターなど多くの先生方の協力の下で当院の小児医療は維持されています。周産期母子医療センター入院中はもとより、退院後も子どもたちの健やかな成長のために協力して診療しています。



PICU
(小児集中治療室)

救命救急処置や、高度な医療を必要とする小児の集中治療を行う施設です。医師・看護師共に小児集中治療のスペシャリストが配属されており、「子どもたちを助けたい」という思いをひとつにして、治療・看護にあたっています。



NICU
(新生児集中治療室)

新生児を専門に治療する医師や看護師が、24時間体制で集中的に赤ちゃんの治療と看護を行なっています。赤ちゃんの呼吸や心拍、体温を常に管理するための特別な機器や設備が整っています。

当院の年間分娩数約700件の内、NICUでの対応件数は約200件と、3割近くに上ります。



管理栄養士

◀お祝い膳(一例)

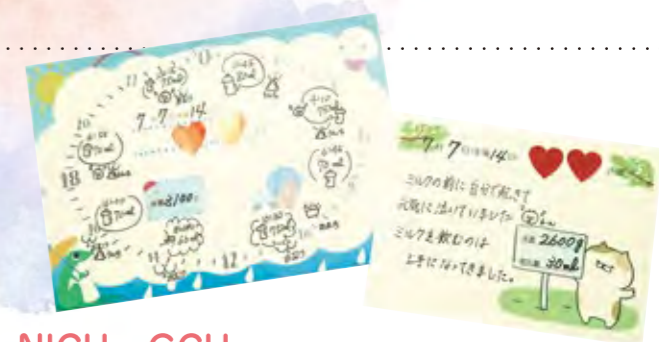
出産を頑張ったお母さんに

心ばかりですがお祝い膳をご用意しています。「たくさん体力を使ったお母さんに、力を付けてもらえるように。」と管理栄養士がメニューを考え、厨房職員が心を込めて院内調理しています。



GCU
(新生児治療回復室)

主にNICUで治療を受け、状態が安定した新生児・乳児とご家族のケアを継続して担当する部門です。赤ちゃんとのふれあひも多くなり、退院後もご家族が安心して自宅で育児ができるよう、退院の準備を進めています。



NICU・GCU

入院中の赤ちゃんに会えないお母さんに向けて

コロナ禍では、入院中の赤ちゃんはお母さんと過ごすことができませんでした。NICU・GCUでは担当の看護師が赤ちゃんの日々の体重や哺乳量、夜の様子などを書いたメッセージカードを毎日作成し、ご家族にお渡ししました。ご家族からは「成長がわかる」「育児日記に貼って楽しんでいる」等、ご好評をいただきました。

産前・産後の不安を助産師に相談してみませんか?

母乳外来 (予約制)

「もっと母乳量を増やしたい」「おっぱいが痛くてどうしよう?」「そろそろ卒乳を考えているけれど…」などさまざまな相談に助産師がお応えし、適切なケアをしています。

おっぱいだけでなく育児の相談も行っています。実際に赤ちゃんがおっぱいを飲んでる様子を見ながら具体的なアドバイスをしています。



助産師外来

産後、生活環境が大きく変わったお母さんのところから健康状態を把握するため、当院で出産された方を対象に産後2週間健診を行っています。また、赤ちゃんの体重測定や黄疸の確認も行います。お母さんの体調や育児、授乳状況など気兼ねなくご相談ください。

助産師からのメッセージ

今日も産科病棟には元気な赤ちゃんの泣き声が響いています。産後のお母さんは、大きな喜びと共に育児や日々変化する乳房に不安や戸惑いでいっぱいです。入院中はもちろん、退院後も母乳外来や助産師外来でサポートさせていただいています。笑顔で育児を楽しんでいるお母さんの姿は、私たち助産師のやりがいです。



外来を受診される方へ

診療科により、紹介制や予約制を設けておりますので、受診の際は
お電話または診療科のホームページをご覧ください。



- ※1 以前当院を受診した方でも初診になる場合があります
- ・診療を受けていた病気が治癒した後、新たな病気について診療を受ける場合
 - ・予約日に受診せず、任意に診療を中止し、一定期間経過した場合
- ※2 初診の予約方法
- ・かかりつけ医から紹介状を受け取り、患者さんがお電話で予約をする方法
(お手元に紹介状をご準備ください)
 - ・かかりつけ医からFAXで予約をする方法

- ※3 次の場合は選定療養費のご負担はありません
- ・救急車で当院に搬送された方
 - ・生活保護による医療扶助の対象となる方
 - ・特定疾患など各種公費負担制度受給対象の方
 - ・労働災害・公務災害で受診の方
 - ・今回受診する診療科は初めてだが、別の診療科に通院中の方

診察後の会計がクレジットカードで あと払いでできるようになりました

お支払い手続きにお待ちいただく時間を短縮するために、
6月から医療費あと払いクレジットサービスを導入しました。
スマートフォン等で事前にクレジットカードの登録を行えば、
次回以降のお支払いは自動決済となります。
登録当日のお会計時からご利用いただけますので、是非
ご活用ください。
登録が反映されるまで、約15分程お時間がかかります
のでご了承ください。

※詳しくは、病院ホームページをご覧ください。



左・領収書発行機 右・あと払い受付機



ご案内QRコード



ご登録QRコード

妊産婦を孤独にさせない。地域・行政と病院で支える

当院の患者さんの中には、特定妊娠といわれる、DVや若年妊娠など複雑な事情を抱える方、知的・精神障害などで育児困難が予測される方、一人親、貧困などさまざまな支援を必要とされる方々だけでなく、産前・産後のホルモンバランスや、生活リズムの変化により悩みを抱えるお母さんが多くいます。

当院では、安心して出産・育児ができるように、産前・産後の妊婦健診やお子さんの1カ月健診などで不安をもつお母さんの情報を、自治体の保健師と共有し、サポートする体制を整えています。
当院MSW(医療ソーシャルワーカー)を中心に周産期母子医療センタースタッフ、登録医のただだメンタルクリニック武田先生、松戸・柏市に在籍の保健師さんらが参加して、月に1度のカンファレンスを実施しています。病院での様子、地域・家庭での様子を情報共有することで、必要な育児支援、経済的支援等を検討し、産前・産後の切れ目のないサポートへと繋げていきます。



総合医療センターの

連携登録医をご紹介します

「かかりつけ医」として患者さんを支え、地域医療に貢献する診療所やクリニック。
今回は、当センターの登録医の中から「ただだメンタルクリニック」をご紹介します。



私たちのクリニックの特徴としては、ただだメンタルクリニック(本院)では松戸市内を中心に東葛地域、東京都北西部の産婦人科と連携し、産後うつなどの妊産

精神科の治療はお薬での治療と心理的治療が二本立てになります。お薬での治療を適切に行うことは当然のことですが、心理的な側面、社会的側面も十分に評価して、適切な心理的サポート・心理療法(カウンセリング)を提供したいと考えております。

力を入れている治療について

中学生の時に、精神科医であり、躁うつ病の当事者でもある作家・北杜夫さんの小説「エッセー」を読み込んで、強い影響を受けました。精神科医という仕事に強い関心を持ち、医師になりたいというより、精神科医になりたいと考え始めたのがきっかけです。

医師を志したきっかけ

ただだメンタルクリニック

時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~13:00	○	○	○	×	○	○	×	×
14:00~18:00 (分院17:00)	○	○	○	×	○	×	×	×

※児童思春期外来は月曜のみ。

所在地：松戸市本町14-18トシオビル3F
電話番号：047-330-2006 (代表)
診療科：精神科

ただだメンタル
クリニック
QRコード



患者さんへのメッセージ

院長の私は8年間、旧・松戸市立病院に勤務し、精神科部門の責任者を務めておりました。他にも旧・松戸市立病院で研修を受けた医師が複数おり、それが大きな経験になっております。当院の患者さんが体の病気になった時にどこに相談しようかと思うと、一番心強い存在です。
当院の特徴として周産期メンタルヘルスを述べさせていただきましたが、松戸市立総合医療センターの産婦人科とは毎月1回、カンファレンスを行い、地域の妊産婦さんのトータルケアのために連携しております。

松戸市立総合医療センターとの連携について

婦さんのケアに力を入れております。松戸東口ただだメンタルクリニック(分院)では複数の児童精神科専門医がおり、子どもの心の問題に力を入れております。
また、摂食障害(拒食症、過食症)についても、入院設備を持つ施設と連携しながら、外来診療については他施設より積極的に対応しております。

体の病気が心のバランスを崩すこともあり、また心の健康が損なわれると体に影響が出ることもあります。この地域の心の医療の窓口になれるよう、スタッフ共々努力してまいります。また、必要に応じて総合医療センターの各診療科と連携して、治療に当たらせていただきます。

院長 武田 直己 先生

